

# 東川町地域公共交通総合連携計画

東 川 町

平成21年3月19日

- 目 次 -

東川町地域公共交通の現状と課題 .....	1
- 1 東川町地域公共交通の現状と問題点 .....	2
- 2 東川町地域公共交通に対する住民ニーズ・意見等 .....	3
- 3 東川町地域公共交通活性化に向けた課題 .....	4
東川町地域公共交通総合連携計画 .....	5
- 1 地域公共交通活性化及び再生の基本的な方針 .....	6
- 2 計画の目標を達成するために行う事業及び実施主体 .....	8
- 3 計画の期間 .....	14

(参考資料)

公共交通の現況整理及び各種調査結果

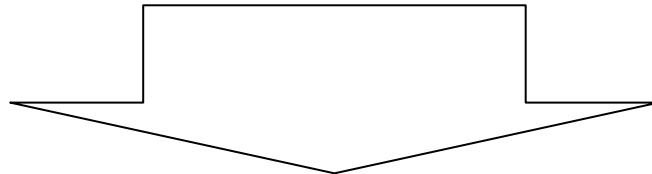
# 東川町地域公共交通の現状と課題

## - 1 東川町公共交通の現状と問題点

町営バスは利用者が減少する一方で、維持管理費は増加している  
町営バスの運行ダイヤは小中学生の下校時間や60番東川線の接続に時間が合っていない  
車両の老朽化が進んでいるとともに、車両規模も利用人数に合っていない  
福祉バスやいきいきセンターバスなどの無料の町営バスも運行されている  
スクールバスは町の廃校の経緯から第二小のみで運行されている  
いで湯号は町と観光協会が運行費用を負担している  
道草号は試験中だが利用者は少ない  
旭川と町を結ぶ60番線は1日17往復運行されている

## - 2 東川町公共交通に対する住民ニーズ・意見等

町営バス車両は小型で十分  
通院や買物など高齢者の利便性を高める工夫をしてほしい  
バス停まで遠いので、曜日で路線を変えろとか、予約したら来てくれるとかしてほしい  
小中学生の登下校や60番東川線との接続を考慮した運行ダイヤにしてほしい  
スーパーや商店街を経由する買物等を考慮した運行経路にしてほしい  
いで湯号の増便や道草号の維持に向けた方策を検討してほしい



## - 3 東川町公共交通活性化に向けた課題

利用しやすい町営バスのダイヤ・運行形態の検討  
維持費用削減、利便性向上に向けたデマンド化の検討  
適切な町営バス車両規模の検討  
交通弱者の移動手段確保に向けた維持可能な運行形態の検討  
観光振興・観光交流の活性化に向けた公共交通の活用  
多様な主体との連携

## - 1 東川町地域公共交通の現状と問題点

---

### 【町営バス】

3路線 1日17便を2台の車両で運行している。近年は利用者が減少し、維持負担費用も増加傾向にある。車両は2台とも平成4年式で総走行距離が40万kmを超えている。運行ダイヤが小中学校の登下校や部活動終了時間に合わなく、60番東川線ともうまく接続できていない。

### 【福祉バス『さわやか号』】

年間約360回、町内外への運行がある。高齢者の利用を優先に運行しており、高齢者の利用が無い場合は、小中学校やクラブ活動等、団体での使用が可能である。

### 【いきいきセンターバス『ひまわり号』】

1日1往復、対象者の自宅と高齢者いきいきセンター間を週4日（火、水、木、金）運行している。送迎の合間には買い物や病院へ送迎することも可能である（迎え9～10時、送り15～16時）。

### 【診療所通所車両】

週1回通院患者を10名、月1回保健福祉課等の依頼患者10人前後の送迎を実施している。現在は、旭川の病院への搬送等も行っている。運転は診療所の公務補が兼任している。

### 【第二小学校スクールバス】

廃校した第四、第五小学校区の児童14人を対象に送迎している。運転は学校の公務補が兼任している。

### 【幼児センターバス】

1日1往復、旧保育所所在地（中央・リリー・なかよし・北立・大雪）を乗降場所として運行し、指定された場所以外での乗降はできない。同乗する保育士が1名以上必要である。

### 【いで湯号】

夏季4往復、冬季2往復、旭川駅から天人峡・旭岳間を運行している。利用者数は年間20,000人前後であり、運行費用を町と観光協会が負担している。

### 【コミュニティバス『道草号』】

旭川空港～道草館を4往復、道草館～旭山動物園を2往復、7月末～9月中の60日間、平成19年度から試験的に運行しているが、周知不足もあって利用者はまだ少ない。

### 【旭川電気軌道 60番東川線】

1日17往復、旭川駅～東川町間を旭川電気軌道が運行している。土・日・祝日においても旭川駅発が1日16便、東川発が1日17便運行している。旭川駅まで片道16km、所要時間は45分である。

### 【北工学園送迎バス】

学生の通学のために無料送迎バスを8路線、1日1往復運行している。入学する学生の自宅の状況に応じて毎年運行経路を変更している。

地域生活支援センター「ふれ愛の郷」を利用する町民のために無料送迎バスを運行している。

## - 2 東川町地域公共交通に対する住民ニーズ・意見等

---

### 【住民（各自治振興会）】

- ・町営バスの小型化を図り、小中学生の登下校に合わせた運行時刻や60番東川線との接続を検討してほしい。
- ・買物等での利用頻度が高い高齢者のためにも、一方通行ではなく両回りでの運行として利便性を高める工夫や商店街やスーパーを通る運行経路の検討、情報サービスなどの付加価値を受けられる工夫などを行ってほしい。
- ・バス停までは遠い。毎日ではなくてもいいので、曜日を決めて近くまで運行するとか、電話で予約すれば来てもらえるなどしてほしい。
- ・利用者の少ない便の減便、デマンド運行、民間企業への委託運行などにより運行経費を削減すべきである。
- ・バス停の位置の明確化など、町営バスを利用しやすい環境にしてほしい。

### 【教頭会】

- ・小中学生利用の無料化や学童保育を考慮した運行時刻、冬休みにスキー場へバスを運行させるなど、小中学生が利用しやすいバスを検討してほしい。
- ・全学校へのスクールバスの配備を検討してほしい。

### 【老人会】

- ・高齢者と小中学生の利便性を最優先に考え、診療所への通院と登下校に考慮した町営バスの運行形態や、旭川への通院時に利用する60番東川線との接続を検討してほしい。

### 【観光協会】

- ・いで湯道を道草館～旭岳間の町営バスとして運行させ、利用者の増加を図るための増便や天人峡線と旭岳線としての運行、試験的に運行している道草号の維持に向けた方策などを検討してほしい。
- ・小学校の移転地をターミナル化するなど、バスに関連する施設整備を検討し、併せて外国人の観光客の増加に対応した環境づくりについても検討してほしい。

### 【その他】

- ・商店街と大型スーパー含めた運行経路を検討してほしい。（商工会）
- ・各学校に専用バスを配備してほしい。（中学校PTA）

### 【北工学園】

- ・協力可能な取り組みがあれば、うまく連携していきたい。

## - 3 東川町地域公共交通活性化に向けた課題

---

### 【利用しやすい町営バスのダイヤ・運行形態の検討】

現在の町営バスの運行ダイヤは、通学の足として登校時には利用できても、下校や部活動の終了時間に合わないなどの声があがっているほか、旭川市と東川町を結ぶ60番東川線との接続もよくない。

このため、登下校時間に合わせた運行ダイヤの検討や60番線との接続改善など、利用しやすい町営バスのダイヤや必要なバスの台数などの検討が必要である。

### 【維持費用削減、利便性向上に向けたデマンド化の検討】

現在の町営バスの便ごとの利用状況を見ると、時間帯によってはほとんど利用者のいない便が見受けられる。

また東川町の市街地はコンパクトにまとまっているが、稲作を基幹とする農業地域は、そのカバーエリアが非常に広いことから、バス停から徒歩圏外のエリアも多い。

このため、デマンド化することによって、利用者がいない場合は運行しないなど、効率的な運行による維持費用の削減が可能であるとともに、また自宅前から乗れるなどの利便性の向上も期待されることから、デマンド化に向けた方策の検討が必要である。

### 【適切な町営バス車両規模の検討】

現在の利用人数や今後のデマンド化を考慮すると、小回りの効く車両規模であることが望ましいが、一方で、現在町営バスが空き時間に、小中学校の課外授業（プールやスキー）の際の移動手段としても利用されているため、その役割を今後どうするのか、福祉バスやいきいきセンターバスなどの他の町所有バスの活用方策とあわせて検討し、適切な車両配置・車両規模を判断していく必要がある。

### 【交通弱者の移動手段確保に向けた維持可能な運行形態の検討】

町営バスは、交通手段を持たない高齢者等の貴重な移動の足となっており、今後も町営として維持可能な運行形態としていく必要がある。

このため、デマンド化も含め、福祉バスやいきいきセンターバスなどの活用も検討し、効率的なサービス・運行に向けた各種バスの統合・再編が必要である。

### 【観光振興・観光交流の活性化に向けた公共交通の活用】

いで湯号は旭岳温泉や天人峡温泉へのアクセスに重要な役割を担っている。現在は、運行費用を町と観光協会が負担しているが、平成19年ではその負担額はかなり圧縮されている。今後は、周知PRの徹底や道草館から先はボランティアガイドをつけるなど、利用者の増加を図る方策を検討し、自立的な運行を目指すことが必要である。

また現在試験的に運行している道草号については、利用者の増加に向けて、周知PRや利便性の向上など、より活用されるための方策を検討することが必要である。

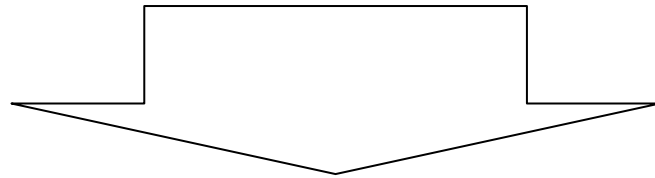
### 【多様な主体との連携】

東川町の公共交通運行には、町の他にも観光協会や社会福祉協議会等の多くの主体が係わっており、それぞれの主体でバスを運行しているが、今後は住民等も含めて、多様な連携による方策を検討し、バスの継続的な維持や地域活性化に向けた取り組みを行うことが求められる。

# 東川町地域公共交通総合連携計画

## 東川町公共交通活性化に向けた課題

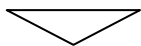
交通弱者の移動手段確保に向けた維持可能な運行形態の検討  
利用しやすい町営バスのダイヤ・運行形態の検討  
維持費用削減、利便性向上に向けたデマンド化の検討  
適切な町営バス車両規模の検討  
観光振興・観光交流の活性化に向けた公共交通の活用  
多様な主体との連携



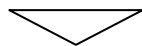
## - 1 地域公共交通活性化及び再生の基本的な方針

子どもから高齢者まで、地域で安心安全に生活できる環境を確保するため、交通弱者の移動の足として欠かせない地域のバス交通を維持するとともに、安心して通学できる環境の整備を図る

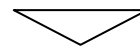
地域の観光振興や観光交流などによる地域の活性化、活力の向上を目指し、来訪者にも使いやすく分かりやすい観光交通体系の構築を図る



町民の移動の  
足を守る



観光交流の  
活性化を図る



バス利用の付加  
価値を高める

## - 1 地域公共交通活性化及び再生の基本的な方針

### ( 1 ) 地域公共交通活性化及び再生の基本的な方針

東川町における公共交通を取り巻く現状や問題、課題を踏まえ、東川町の地域公共交通の活性化及び再生の総合的かつ一体的な推進に関する基本的な方針を以下のように定める。

子どもから高齢者まで、地域で安心安全に生活できる環境を確保するため、交通弱者の移動の足として欠かせない地域のバス交通を維持するとともに、安心して通学できる環境の整備を図る

地域の観光振興や観光交流などによる地域の活性化、活力の向上を目指し、来訪者にも使いやすく分かりやすい観光交通体系の構築を図る

### ( 2 ) 計画の区域

この計画は、東川町をその区域とする。





### ( 3 ) 計画の目標と施策体系

目 標	施 策
町民の移動の 足を守る	登下校への対応、乗換・接続を考慮したダイヤの見直し
	地域との協働によるデマンドバス運行・車両の購入
	公共交通空白地の解消
	買物の利便性を考慮したルートの見直し
	運行改善のためのデータの管理及び運行状況の把握
観光交流の 活性化を図る	いで湯号の利用促進 P R 活動の充実・強化
	バスとロープウエーとの連携による観光交流の活性化
	いで湯号・道草号の再編・運行充実による新たな観光交流の創出
バス利用の付加 価値を高める	バス利用特典クーポンなど商工会や商店街等との連携
	B D F の使用、低公害車導入など環境にやさしい交通体系の構築
	バス車内における各種情報の発信、交流空間としての活用

## - 2 計画の目標を達成するために行う事業及び実施主体

### (1) 町民の移動の足を守る

#### 登下校への対応、乗換・接続を考慮したダイヤの見直し

東川小・中学校、一小・二小・三小への登下校、特に下校時間への対応を図るため、現行の3路線を2台で運行する体制を見直し、3路線3台体制による運行へと移行を図る。

#### ダイヤ見直しの基本的考え方

- ・旭川市内の高校に通う生徒の登下校にも対応を図り、登校は旭川行き(6:50発)に、下校は旭川からのバス(19:31着)に、道草館で接続するように設定する。
- ・東川中学校(役場前)に登校便は8:00頃に到着、下校便は16:00頃、部活下校便は18:45ごろに発車するよう、各路線のダイヤを設定する。
- ・午前中は、旭川行きに、午後は旭川からの到着バスに道草館で接続するように設定する。
- ・診療所や商店街、学童保育に通う足としても活用されるよう対応を図る。

運行便	基本的考え方
高校生登校便	道草館で60番線 旭川行き(6:50)に接続するよう運行
登校便	東川中学校(役場前)に8:00ごろ着となるよう運行
東川 旭川接続便	道草館で60番線 旭川行き(9:55)に接続するよう運行
旭川 東川接続便-	道草館で60番線 道草館着(11:31)に接続するよう運行 診療所・商店街へ通う足として、12:30~13:00着となるよう運行
旭川 東川接続便-	道草館で60番線 道草館着(14:31)に接続するよう運行 学童保育を考慮し、一小、二小、三小に15:00頃接続するよう運行
下校便	東川中学校(役場前)を16:00ごろ発となるよう運行
部活下校便	60番線(道草館18:31着)との接続及び中学校部活後の下校に対応し、東川中学校(役場前)を18:45ごろに発となるよう運行
高校生下校便	60番線(道草館19:31着)との接続に対応し、道草館前を19:45ごろに発となるよう運行 予約制として、事前申込みが無い場合は運行しない

- ・ダイヤの見直し後は、便別利用者数調査を実施し、時間帯別の運行便数配分の再見直しなど、望ましい運行方策に向けて常に改善していく。

実施主体

東川町

実施時期

平成21年度~

## 地域との協働によるデマンドバスの運行・車両の購入

3台体制として利便性を高めることに加え、現状として利用者がそれほど多くない日中の時間帯について、民間交通事業者と連携した乗合タクシー事業によるデマンド化を実施する。

利用者は事前に名簿に記載し利用時には予約が必要となるが、路線ではなく区域を定める運行形態とすることにより、自宅近くでバスの乗降が可能となることから、利用者の利便性はさらに高まるものと考えられる。それにより、潜在的なバス利用ニーズの掘り起こしや高齢者等の外出促進、コミュニティ活動の活性化なども期待される。

東川町は、バス停間距離が概ね600m近くあることや対象地域が広く、徒歩圏にバス停がないエリアもみられることから、日中時間のデマンド化は有効と考えられる。デマンドバスの運行に向けては、地域住民ニーズを把握するとともに、地域の実情にあった運行方策を探るため実証実験運行を積み重ねて、本格実施を目指すこととする。

運行便	デマンド化の考え方
高校生登校便	路線を定めて定期運行
登校便	
東川 旭川接続便	予約に応じたデマンド運行 (乗合タクシー事業による区域運行)
旭川 東川接続便-	
旭川 東川接続便-	
下校便	路線を定めて定期運行
部活下校便	
高校生下校便	

### 実施主体

東交ハイヤー、東川町

### 実施時期

年度	実証運行	備考
平成21年度	町内3路線（東忠別線、北忠別線、東雲・上岐登牛線）についてデマンドバス（乗合タクシー事業による区域運行）の実証運行を実施 事前の住民への周知PRの徹底を図り、利用促進のためのパンフレット、チラシ等を作成	・デマンドバス実証運行のためのジャンボタクシー等の車両購入（東交ハイヤー） ・検証内容：予約オペレーションに関する問題課題の把握、デマンド化による運行回数や運行キロの削減率の把握、利用者アンケートによるデマンドバスの評価・改善点の把握
平成22年度	検証内容を反映し、改善を加えた実証運行を実施	・前年度の乗車実績・需要等に応じてジャンボタクシー等の車両購入を検討（東交ハイヤー） ・検証内容：基本的に同じ
平成23年度	さらなる改善が必要であれば、実証運行を実施 軌道に乗った運行が可能と判断されれば3路線での本格運行	・検証内容：基本的に同じ
平成24年度以降	本格運行の実施後もより良い運行形態を確立するため、継続的な検証・見直し	・検証内容：基本的に同じ

## 公共交通空白地の解消

旭岳・天人峡地区は、町内の観光を支える重要な拠点であり、宿泊施設も多く立地していることから、従業員として働く住民も多い。しかし、同地区は市街地から30km以上離れた場所に位置しているため、同地区の居住者や市街地から通勤する従業員の移動手段を確保することが重要である。

そこで、現行の町営バス3路線に加え、市街地と同地区とを結ぶ路線の運行について実証運行実験を実施し、本格実施を目指す。

現行の町営バスは3路線を車両2台で運行しており、現有する車両を市街地と同地区とを結ぶ路線に活用することが難しいことから、新規に車両を購入する。車両については、同地区の居住者数や同地区への通勤者数、路線運行による市街地住民や町内来訪者の利用増等を勘案し、適正な規模を検討する。

### 実施主体

東川町、東川町観光協会

### 実施時期

平成22年度～

年度	実証運行	備考
平成22年度	道草館～旭岳・天人峡地区への町営バスによる実証運行を実施 事前の住民への周知PRの徹底を図る。	・実証運行のためのバス車両の購入 (東川町)
平成23年度	検証内容を反映し、改善を加えた実証運行を実施	
平成24年度以降	軌道に乗った運行が可能と判断されれば本格運行 本格運行の実施後もより良い運行形態を確立するため、継続的な検証・見直し	

- ・実証運行による利用実態から、運行時刻や運行便数の見直しを図り、望ましい運行方策に向けて常に改善していく。

## 買物の利便性を考慮したルートの見直し

現行の路線の一部見直しを図り、西5号経由として買物の利便性を高めるルートを検討し、見直しを図る。後述するバス利用特典クーポンの発行などとあわせて、買物利用の利便性を高める。

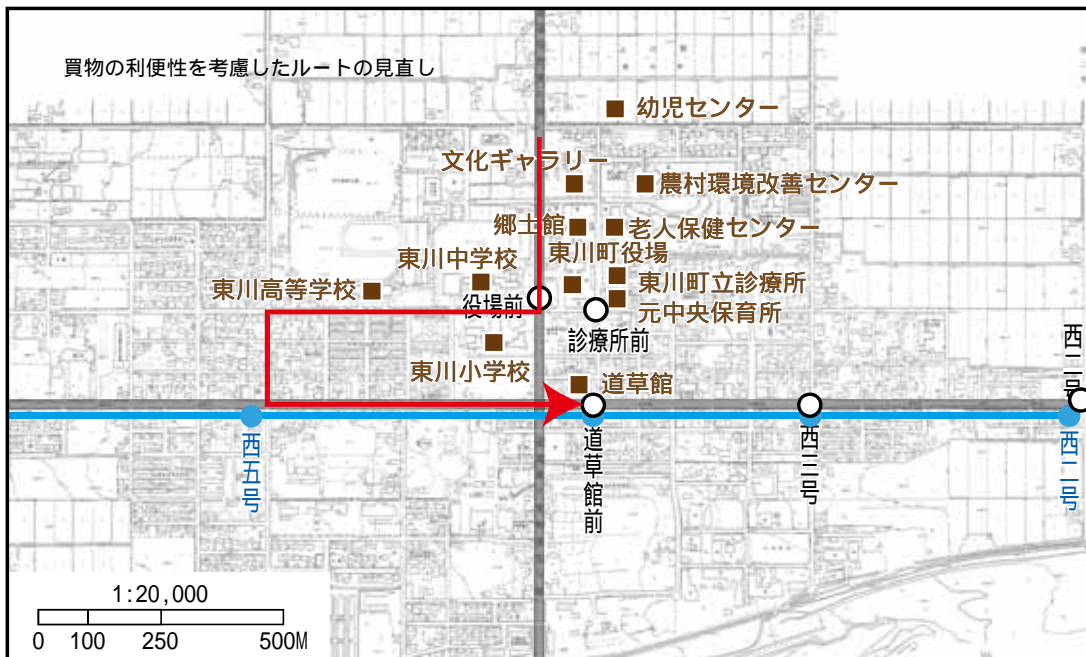
### 実施主体

東川町、東川町商工会、東川町観光協会

### 実施時期

平成21年度 ルートの見直し検討・実施、特典クーポンの検討

平成22年度 特典クーポンの実施



## 運行改善のためのデータの管理及び運行状況の把握

利用者数の推移や便別、路線別での状況を常に把握し、運行改善のための基礎資料とするため、各種バスの便別や日別、路線別の利用者数、運行キロ数などの基本データについては、運行日誌だけではなく、電子データとして毎日の記録として保存することを原則とする。

また、運行経費、維持管理費用、人件費などについても月単位などで適宜電子データとして記録・保存する。

### 実施主体

東川町

### 実施時期

平成21年度～

## ( 2 ) 観光交流の活性化を図る

### いで湯号の利用促進 P R 活動の充実・強化

いで湯号については、平成19年度から通年有料化の運行形態となったが、通年有料化の影響もあり利用者は減少傾向にある。しかし一方で、通年有料化によって収入は増加し、赤字額は大きく減少している。

このため今後は利用者の増加を図るため、チラシやパンフレット、ホームページ等での利用促進 P R 活動の充実・強化について、道草号や町営バスとの一体的な利用促進 P R の展開などにより、東川町の観光交流の活性化を図る。また、土日などの利用者が多い日などに、道草館から住民等による観光ガイドをつけ、大雪山や天人峡以外にも東川町内の魅力を伝えるなど、いで湯号利用の付加価値を高める施策についても検討を進める。

#### 実施主体

東川町観光協会、東川町

#### 実施時期

平成 2 1 年度 ~

### バスとロープウエーとの連携による観光交流の活性化

いで湯号と旭岳ロープウエーとの連携を図り、乗り継ぎ割引の検討や、いで湯号、道草号、町営バスとの一体的な利用促進 P R の展開などにより、東川町の観光交流の活性化を図る。

#### 実施主体

東川町観光協会、東川町

#### 実施時期

平成 2 1 年度 ~

### いで湯号・道草号の再編・運行充実による新たな観光交流の創出

観光入込のポイントとして旭岳温泉（天人峡温泉）と旭山動物園、交通のポイントとして旭川駅と旭川空港、これらのポイントを結ぶネットワークを、道草館を拠点として構築し、新たな観光動線の創出による観光交流の活性化を図る。

いで湯号と道草号との一体的・総合的な再編検討を進め、旭川空港と旭岳温泉、旭岳温泉と旭山動物園を道草館経由で結ぶ路線運行などについて、実証実験運行などを実施しながら、その実現可能性の検討を進める。

また、運行の実現に向けては、関係市町村の協議会等と協同で取り組むことを視野に入れ、連携・協議を行っていく必要がある。

#### 実施主体

東川町観光協会、東川町

#### 実施時期

平成 2 1 年度 ~

### ( 3 ) バス利用の付加価値を高める

#### バス利用特典クーポンなど商工会等との連携

バス利用者に対して商店街や道の駅で利用できる特典クーポンを発行するなど商工会等との連携を進める。

#### 実施主体

東川町商工会、東川町観光協会、東川町

#### 実施時期

平成 2 1 年度 ルートの見直し検討・実施、特典クーポンの検討  
平成 2 2 年度～ 特典クーポンの実施

#### B D F の使用、低公害車導入など環境にやさしい交通体系の構築

国立公園を有する東川町として、環境にやさしい交通体系の構築に向けて、バイオディーゼル燃料 ( B D F ) の使用や低公害車の導入などを推進する。

#### 実施主体

東川町

#### 実施時期

平成 2 1 年度～

#### バス車内における各種情報の発信、交流空間としての活用

バス車内に情報掲示板などを設置し、そこから地域のイベント情報や商店街の売り出し情報など、地域に密着した情報を提供し、バス利用の付加価値を高める。

#### 実施主体

東川町、自治振興会 ( 西部、第1、キトウシ、第3 )、中央分館、東川町市街地振興会、東川町商工会、東川町観光協会

#### 実施時期

平成 2 1 年度～

### - 3 計画の期間

本計画は、平成21年度から5年間を計画期間とし、それ以降についても継続的に取り組むこととする。また、計画の変更が必要な際は、関係機関と協議の上、見直しを図る。

		H 2 1	H 2 2	H 2 3	H 2 4 ~
町民の移動の足を守る	登下校への対応、乗換・接続を考慮したダイヤの見直し	● 実施 準備・検討	→	→	→
	地域との協働によるデマンドバスの運行・車両の購入	● 準備・検討	● 3路線実証運行 改善実証運行	● 改善実証運行 or本格運行	● 本格運行
	公共交通空白地の解消		● 実施 準備・検討	→	→
	買物の利便性を考慮したルートの見直し	● 実施 準備・検討	→	→	→
	運行改善のためのデータの管理及び運行状況の把握	● 実施	● 継続実施	→	→
観光交流の活性化を図る	いで湯号の利用促進PR活動の充実・強化	● 実施	● 継続実施	→	→
	バスとロープウエーとの連携による観光交流の活性化	● 準備・検討	● 実施	→	→
	いで湯号・道草号の再編・運行充実による新たな観光交流の創出	● 再編検討 (まち交実験中)	● 見直し実証実験運行	→	● 本格運行検討
バス利用の付加価値を高める	バス利用特典クーポンなど商工会や商店街等との連携	● 準備・検討	● 実施	→	→
	BDFの使用、低公害車導入など環境にやさしい交通体系の構築	● 準備・検討	● 実施	→	→
	バス車内における各種情報の発信、交流空間としての活用	● 実施	● 継続実施	→	→